

地域づくり活動支援体制整備事業 成果報告会

夕張の地域資源を活用した
地域住民主体の観光振興 及び
特産品開発・販売への中間支援活動
事業成果報告

平成29年2月27日

夕張のあらたな魅力の発掘・発信に向けた
中間支援コンソーシアム

発表者：万平 政宏

1. 事業実施地域の課題

夕張市は地方公共団体財政健全化法の創設以来唯一となる財政再生団体であり、財政破綻から10年が経過した。※

この間、「炭都」として最盛期に10万人を超えた人口の急激な減少と高齢化が進んでいる。

地域の活性力は弱体化し夕張市民としての誇りまでも喪失せざるをえない状況となっている。

(※ 夕張市は、旧再建法である地方財政再建促進特別措置法にもとづく準用財政再建団体への指定申請の意思を平成18年6月に表明した)



2. 事業概要

(1) 事業の実施体制

① 夕張のあらたな魅力の発掘・発信に向けた中間支援コンソーシアムメンバーと役割分担

構成主体	役割（中間支援の内容）
公益財団法人 はまなす財団	当該コンソーシアムの事務局を務め、地域づくり活動団体の取組みが自立的な活動として継続し、取組みの事業化が実現可能となるように中長期的視野に立ちプレイングマネージャーとして団体の計画策定の段階から伴走型の中間支援を行う。
夕張市	夕張市は地域の活性化に向けた取組みを本格化させ、市民、企業、行政の連携により地域づくりを進めていくことを表明しており、観光・産業遺産・特産品など地域資源の活用や情報発信などプラットフォームの構築に向けて支援を行う。 また、市が保有する産業遺産施設や観光施設、体育施設などの指定管理業者と担い手との協力・連携の強化を図る。
北海道空知総合振興局	炭鉱（ヤマ）などの空知総合振興局管内の特有の地域資源を活かした広域観光の推進や特産品など空知ブランド力の向上に向け、管内市町村との調整を図りながらプロモーションなどの支援を行う。
夕張商工会議所	担い手メンバー個々の事業活動に対するビジネス面での支援を行う。 また、担い手と夕張市内の関連事業者をコーディネートする。
株式会社北洋銀行	事務局に出向させている職員と連携し、当地域づくり活動支援体制の運営を支える。また「食」・「観光」に関する同行の専門部署機能を活用し他のコンソーシアムメンバーとの協働により、特産品の販促・観光振興に向けた中間支援を実施する。

2. 事業概要

(1) 事業の実施体制

② 担い手の概要及び取組内容

【団体名称】

「夕張市民による夕張駅周辺地域活性化推進協議会（ＹＹＰ）」

【発足経緯と活動概要】

ＹＹＰは、夕張市内で廃校を利用して社会福祉事業を営む事業者と夕張駅前で屋台村として飲食業を営む事業者や夕張市内の菓子店が連携し発足した任意団体である。夕張駅周辺を拠点に夕張市全域を活動範囲として、地域の活性化に向けた活動を実施中にある。

【活動の目標】

夕張市民自らが主体となり「夕張のあらたな魅力の発掘・発信」を実現させ「夕張の地域再生と市民の誇り回復」を目指す。

【取組みの柱】

産業遺産や夕張メロンなどの地域資源を活用し、“観光促進”・“特産品の開発・販売とブランド化”・“にぎわいづくり、魅力発信”を取組みの柱と位置づけ、この三つの柱となる取組みを有機的に結びつけることで、それぞれの事業化が実現可能となるように活動する。

2. 事業概要

(1) 事業の実施体制

② 担い手の概要及び取組内容

担い手	これまでの活動内容	本事業で新たに取り組む内容
取組① 観光促進に向けた取組		
Y Y P (一般社団法人らぷらす)	ボランティア によって	夕張市民が有償観光ガイドとして活躍できるように 市民観光ガイド業の地域ビジネス化を目指す。
Y Y P	みち・まちかど（観 光）案内を実施。	夕張市内の観光事業者やスポーツ関連事業者などと 連携を図り、夕張観光のあらたなメニューを構築し 事業化を図る。
取組② 特産品開発・販売とブランド化に向けた取組		
Y Y P		夕張地元事業者による、夕張産原材料を使用した、 あらたな夕張特産品の開発を行う。 あらたに開発した特産品や地元事業者の既存商品に ついて販売促進とブランド化を図る。
取組③ にぎわいづくりと魅力発信に向けた取組		
Y Y P	夕張駅周辺地域 にて イベントを開催。	夕張特産品の直売会などの開催や出店を行うととも に、観光や特産品など夕張の魅力や地元情報の発信 プラットフォームの構築を目指す。

2. 事業概要

(2) 事業のスキーム

〔タ張コンソ構成主体〕

北海道空知総合振興局

株式会社北洋銀行

公益財団法人はまなす財団

タ張市

タ張商工会議所

《観光促進》

〔主な支援〕

- ・市民観光ガイド養成
- ・観光コース企画アドバイス
- ・観光施設指定管理業者との連携強化に向けアドバイス

《にぎわいづくり、魅力発信》

〔主な支援〕

- ・地域コンテンツの収集・データ整備、HP開設アドバイス
- ・販促会開催支援、体育施設管理者等との連携に向けてアドバイス

《特産品の開発・販売、ブランド化》

〔主な支援〕

- ・商品コンセプト検討支援・商品開発に対するアドバイス
- ・販売促進支援・アドバイス
- ・統一ロゴ・包装の作成デザイン支援

観光客等への
タ張の魅力発信

《観光促進》

〔実施事項〕

- ・タ張市民などによる観光ガイド活用
- ・観光コース企画

〔解決すべき課題〕

- ・観光コース企画向上
- ・観光情報発信機能の構築と情報管理機能の一元化

◇ 目指すべき将来の姿

観光情報ワンストップ窓口

《にぎわいづくり、魅力発信》

〔実施事項〕

- ・地域コンテンツ・データ整備、HP開設
- ・タ張特産品販売促進会の開催・出展

〔解決すべき課題〕

- ・地域資源情報等整備
- ・ICT関連ノウハウ取得
- ・地域情報発信機能の構築

◇ 目指すべき将来の姿

情報機能を備えた常設マルシェ

YYP

構成メンバー：タ張地元民間事業者

特産品・土産品

販売・テストマーケット
の場として活用

《特産品の開発・販売、ブランド化》

〔実施事項〕

- ・特産品の開発・販売促進
- ・統一ブランドの企画

〔解決すべき課題〕

- ・商品企画力、開発ノウハウ取得
- ・販売促進のノウハウ取得
- ・商品ロゴ・パッケージデザイン力

◇ 目指すべき将来の姿

タ張特産品の統一ブランド

3. 各取組の概要

①取組1：観光促進に向けた取組み

(取組内容)

◎取組の概要

夕張コンソは本年度、地域が主体となる観光の推進を図るため、YYPの観光促進にむけた取組みに対し次の二つの支援活動を行った。

○観光ガイド養成講座の開講

夕張市民の希望者に対してガイド育成を図る。

○モニタリングツアーの実施

産業遺産、映画ロケ地などを巡るあらたな観光コースを設定し、観光ガイド養成講座のガイド実践研修を実施しながら市内観光を実施した。

◎構成主体・役割(中間支援の内容)

構成主体	役割(中間支援の内容)
公益財団法人 はまなす財団	地域が主体となる観光の推進が図れるようにアドバイスを実施し、夕張コンソの事務局として観光促進に向けた取組みの企画および事務処理等運営の全般を行う。
夕張市	夕張市全体の観光振興の支援を図り、夕張コンソの観光促進に向けた取組みの企画および業務運営を行う。
株式会社北洋銀行	観光振興の専門部署により、事務局の運営を支えるとともに、セミナー開催により、夕張市の観光推進に資する助言・提案を行う

3. 各取組の概要

①取組1: 観光促進に向けた取組み (成果と課題)

◎各取組の成果・課題

○ 観光ガイド養成講座

夕張市の発行する広報誌に募集チラシを折り込み、夕張市民に対して受講希望者を募り講座を開講した。

観光ガイドとして業務従事が可能であると認められる受講生を有しているのだが、観光ガイド従事者として躊躇する受講生が多い。

講座でのカリキュラムは座学講座による観光ガイド育成となっており、実践研修のカリキュラムが少ない。特に下期開講講座はスケジュールの都合上で実践研修の設定が無い。

このようにガイド体験機会が少ないことが要因の一つと考えられ、観光ガイドへの従事者として自信を深めるための実践研修などの実施が課題となっている。

また、受講者のすそ野拡大も必要と考えている。



3. 各取組の概要

①取組1: 観光促進に向けた取組み (成果と課題)

◎各取組の成果・課題

○ モニタリングツアーの実施

札幌ゆうばり会の会員や大手旅行会社の営業担当を対象としてモニタリングツアーを10月12、13日に一泊二日で実施した。

このツアーは、上期開講の観光ガイド養成講座受講生のガイド実践の場として、あらたに企画した観光コースを巡った。

モニタリングツアー参加者からは観光地としての環境整備が必要であることが指摘されており、事業化に向けて課題が山積していることを認識した。

- ・ 古い観光施設が放置されている
- ・ お土産品の購入場所が少ない
- ・ 観光マップが古い など



3. 各取組の概要

①取組1:観光促進に向けた取組み (成果と課題)

◎活動の社会的意義・社会的成果

○夕張市民と一体となった地域活性

北海道内179市町村の中で高齢化率が最も高い夕張において、必然的に高齢者も含め様々な市民とともに地域活性を進めていかなければならない。

観光促進の取組みは、夕張市民と地元の観光資源や地域資源を中心に添えて推進を図る取組みであり、夕張市内に在住の最高齢86歳を筆頭にした様々な年齢層の方々を対象に観光ガイド養成講座を開講した。

受講生はこの観光ガイド養成講座においてツアーバスへの乗車ガイド業務や観光施設でのガイド業務の従事を目標に受講しており、この受講生が有償の市民観光ガイドとして活動することとなれば、ビジネスを志向した地域づくり活動の好事例として夕張市内や全道・全国に発信が可能である。



3. 各取組の概要

①取組1：観光促進に向けた取組み

(成果と課題)

◎地域ビジネスの達成状況・今後の見通し

市民による観光ガイド業をあらたな地域ビジネスとするためには、市内観光メニュー、市内観光ツアーを増加させることが必須である。

また、観光促進に向けた取組みは夕張の魅力を対外に向けていかに発信していくかが重要であり、“取組3：にぎわいづくり、魅力発信の取組み”における地域情報の発信機能の強化と表裏一体である。

夕張コンソの一員である夕張市のリーダーシップのもとにYYPと市内の旅行関連業者などが連携を深めて推進を図る。

◎成果目標

成果目標	当初の状況	目標	達成状況（実績）
ツアーバス搭乗可能到達者	0名	2名	2名
観光施設・観光案内センター業務従事者	0名	8名	10名

ツアーバス搭乗可能到達したと判断している受講生は2名、観光施設・観光案内センター業務従事可能到達者と判断している受講生も10名程度と見込んでいるが、実際に従事希望者を募ると躊躇するものが多い。

3. 各取組の概要

②取組2：特産品の開発・販売とブランド化に向けた取組み (取組内容)

◎取組の概要

夕張コンソはＹＹＰに対して、地域資源である夕張メロンを活用したスイーツなどの商品企画や開発に対するアドバイスを実施するとともに、夕張市内の既存品およびＹＹＰ参画メンバーが扱う夕張特産品の統一ブランド化に向けたアドバイス支援を行う。



◎構成主体・役割(中間支援の内容)

構成主体	役割(中間支援の内容)
公益財団法人 はまなす財団	特産品開発や販売、商品コンセプトの企画・検討に関するアドバイスを実施する
夕張市	販売促進会への出展について支援を行う
株式会社北洋銀行	夕張コンソの他の構成主体と連携して、ＹＹＰメンバー個々の事業活動に対する販売促進などビジネス面での支援を実施する

3. 各取組の概要

②取組2: 特産品の開発・販売とブランド化に向けた取組み (成果と課題)

◎各取組の成果・課題

○ 試食会・意見交換会の実施

メロンスムージー、バウンドケーキ、焼き菓子の三品を試作品として開発した。特にメロンスムージーは札幌市や帯広市でテスト販売を行ったところ好評であり、YYPのメンバーは試作品の販売に自信を深めた。

また、札幌市内の専門学校と大学にてメロンスムージー、バウンドケーキの試食会・意見交換会を実施し、試作品に対する評価や改善策などの意見交換を行った。

「試作品そのものは美味しいがメロン感が不足している」や「夕張メロンのイメージを強調されていない」といった課題が指摘され、課題の検討および試作に取組んでいる。



3. 各取組の概要

②取組2: 特産品の開発・販売とブランド化に向けた取組み (成果と課題)

◎各取組の成果・課題

○ 特産品の販売促進と統一ブランド化

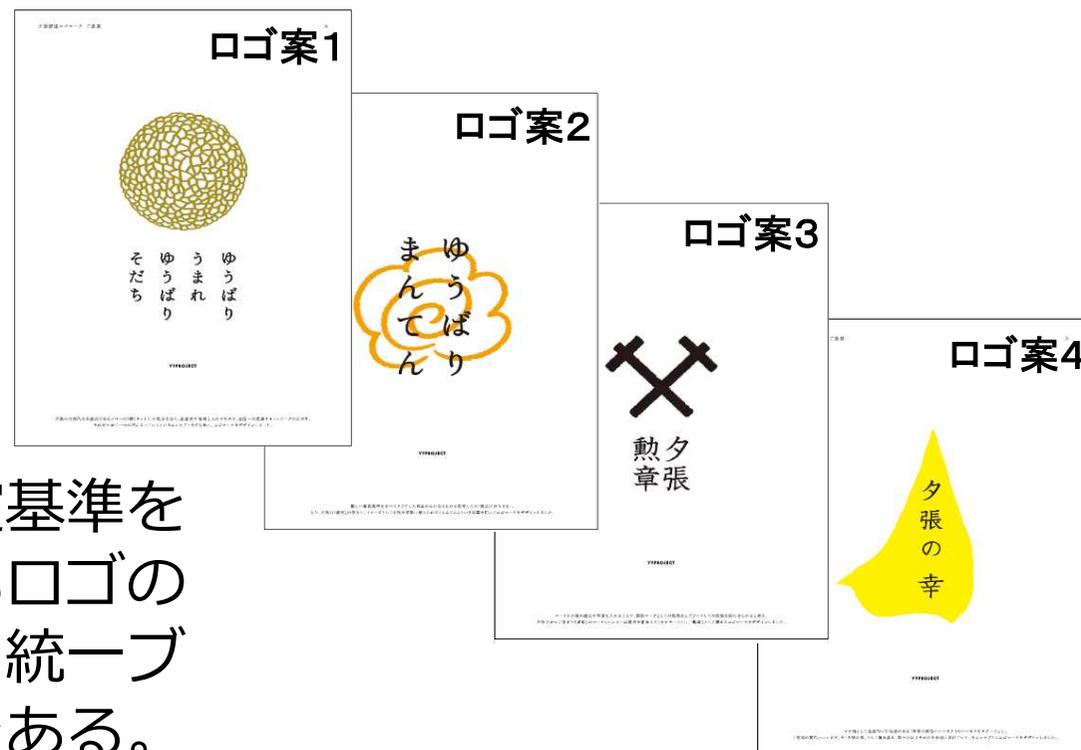
統一ブランド化について取組みを実施し、ロゴマークのデザイン制作を行った。

ＹＹＰメンバーの商品のみならず一定基準をクリアした夕張市の事業者の商品にもロゴの使用を拡大するなどを検討しており、統一ブランド運用の仕組みづくりを検討中である。

○ 「夕張メロン」商標の許諾に向けた取組み

夕張メロンを活用した特産品開発についてＹＹＰメンバーは「夕張メロン」商標の許諾取得という、より高い目標に挑むことをあらためて掲げた。

「夕張メロン」は夕張市農業協同組合（ＪＡ夕張市）の商標であり、これまでＪＡ夕張市が大切に育ててきたブランドである。そのブランドの許諾には使用する原材料はもちろん品質管理など相当なレベルが求められる。ＪＡ夕張市などからの協力を得ながらＹＹＰメンバーはこの目標に挑むこととなり、ＹＹＰメンバーの特産品開発への意識向上が図られた。



3. 各取組の概要

②取組2：特産品の開発・販売とブランド化に向けた取組み (成果と課題)

◎活動の社会的意義・社会的成果

○市内事業者との連携強化

YYPでは市内の菓子店の既存品も含め夕張の特産品の販売促進に向けた活動を実施した。

今年度は、札幌市での食イベントやプロバスケットボール試合会場、帯広市でのイベントでスムージーの試験販売とともに夕張市内の菓子店2店舗などの既存商品の直売会を行った。

この活動によりYYPと夕張市内事業者間との連携が深められた。

次年度以降は、〃取組3：にぎわいづくりと魅力発信に向けた取組み〃により企画・実施する市内直売会での連携も図るなど、夕張の特産品販売の促進に向けALL夕張の事業者参加による体制として発展を図れるよう強化を図る。



3. 各取組の概要

②取組2: 特産品の開発・販売とブランド化に向けた取組み (成果と課題)

◎地域ビジネスの達成状況・今後の見通し

特産品の開発・販売とブランド化に向け、本年度はビジネス化に向けた準備期間として試験的、基盤整備などに力点を置き活動した。YYPメンバーが開発した試作品のうちスムージーは、テスト販売でも期待以上の売り上げを上げており、事業化に向けた手ごたえは充分である。

一方、YYPメンバーによる夕張の特産品の販売促進の活動のキーポイントはYYPの自主財源で販売促進に向けた活動を実施することであり、YYPの収益確保への仕組みづくりの構築が課題である。



◎成果目標

成果目標	現状	目標	達成状況 (実績)
YYP開発特産品商品年間売上	0	4,000千円	4,080千円

3. 各取組の概要

③取組3: にぎわいづくりと魅力発信に向けた取組み (取組内容)

◎取組の概要

〓 観光促進に向けた取組み〓、〓 特産品の開発・販売とブランド化に向けた取組み〓を有機的に結び付けるのが〓 にぎわいづくり、魅力発信の取組み〓である。

本年度、夕張コンソはYYPに対して、直売会の実施・企画、地域コンテンツの収集、データ整備およびHP開設などについてアドバイスを行い、YYPは観光や特産品など夕張の魅力や情報の発信に向けた取組みに着手した。



◎構成主体・役割(中間支援の内容)

構成主体	役割(中間支援の内容)
公益財団法人 はまなす財団	電子媒体の活用など夕張の情報発信強化に向けたアドバイスを行う
夕張市	地域情報発信強化に向けた取組みの支援を行うとともに観光などの市内の関連事業者との連携・情報共有化を支援する
株式会社北洋銀行	観光促進や特産品の販売促進に向けプロモーションなどの支援を行う

3. 各取組の概要

③取組3: にぎわいづくりと魅力発信に向けた取組み (成果と課題)

◎各取組の成果・課題

○直売会・イベント出店

この夏は台風の北海道直接上陸など天候不順もあったが、夕張コンソが企画・開催の準備をおこない、近隣農家の協力を得て夕張駅前の観光案内センター広場での野菜直売会などをYYPが実施した。

また、夕張コンソの一員である夕張商工会議所が夕張市内を会場に主催した「北海道カレーサミット 2016 in 夕張」にYYPメンバーが出店し、開発したスムージーの試験販売を実施したところ、準備した数量が短時間で売り切れた。次年度以降は、常設の直売会場による実施を最終目標に企画・運営を図る。



○夕張の観光や特産品など地域情報発信に向けた取組み

夕張市役所のホームページは平成29年4月にリニューアルとなり、観光や特産品情報発信のページはYYPも含め地元事業者に開放されることから、観光や特産品などの地域情報をタイムリーに更新できるようにYYPに対する勉強会を夕張コンソが実施した。

3. 各取組の概要

③取組3: にぎわいづくりと魅力発信に向けた取組み (成果と課題)

◎活動の社会的意義・社会的成果

○ＹＹＰの地域づくり活動

「観光」や「特産品」、そして「にぎわいづくりと魅力発信に向けた取組み」を三本柱として取組むＹＹＰの地域づくり活動は、「これからの夕張は何で飯を食っていくか」を自ら体現するものである。夕張の地域活性に向けた地域づくりとして、市内波及への期待が高い。

○夕張市内観光マップ・チラシ

夕張の観光や特産品情報発信に向けた勉強会では、ケーススタディとして夕張観光マップ・チラシを作成した。

夕張市内には最新情報を網羅したマップやチラシが不在であると指摘されており、このケーススタディとして作成したマップ・チラシは、より見やすいマップ・チラシへと講師からの指導を受け改修を行い、次年度早々に夕張市役所ホームページへアップし共有化を図る。

また、ＹＹＰの「にぎわいづくり活動の拠点」として位置づける夕張市観光案内センターにこのマップ・チラシを印刷物として配置した。

3. 各取組の概要

③取組3: にぎわいづくりと魅力発信に向けた取組み

(成果と課題)

◎活動の社会的意義・社会的成果

○夕張市内観光マップ・チラシ

本町・末広エリア 宿 温泉 銀行

清水沢・南清水沢・清陵・南部エリア 宿 銭湯 ATM 銀行

おすすめ情報
ふるさと納税 ふるさとチョイス
夕張メロンや様々な特産品などあり！
<https://www.furusato-tax.jp>

若菜・鹿ノ谷エリア 宿 温泉

沼ノ沢・紅葉山・楓・滝の上エリア 宿 ATM

おすすめポイント
ゆづり温泉
<http://yuzumeshi.com>

本町・末広エリア ~「夕張駅」から徒歩 20 分圏内~

南清水沢・清陵エリア ~「南清水沢駅」から徒歩 20 分圏内~

紅葉山エリア ~「新夕張駅」から徒歩 10 分圏内~

夕張飲食店情報

夕張 鹿ノ谷 清水沢 南清水沢 沼ノ沢 新夕張

鹿ノ谷・若菜エリア ~「沼ノ沢駅」から徒歩 30 分圏内~

清水沢エリア ~「清水沢駅」から徒歩 10 分圏内~

沼ノ沢エリア ~「沼ノ沢駅」から徒歩 0 分圏内~

南部エリア 清水沢駅 から徒歩 90 分圏内

3. 各取組の概要

③取組3: にぎわいづくりと魅力発信に向けた取組み (成果と課題)

◎地域ビジネスの達成状況・今後の見通し

YYPのにぎわいづくりに向けた取組みは、将来的に観光情報や夕張ブランド商品などといった夕張の魅力や情報の発信機能を備えた常設のマルシェへの展望を視野に入れている。しかし、現状ではYYPのマンパワーは限界であり、夕張コンソの一員である夕張市のリーダーシップのもと夕張市全体を巻き込みマンパワーの増強をはかりながら、最終展望の実現をめざし推進する。



◎成果目標

成果目標	現状	目標	達成状況 (実績)
夕張駅周辺来訪者数	24千人 (平成26年度実績)	26千人	1月末実績 24千人

3. 各取組の概要

④ 広報に関する取組

(担い手の活動・中間支援体制に関する広報)

担い手および地域づくり活動支援体制の取組み周知に関する広報は、担い手である Y Y P の取組みを夕張市内の事業者などに伝え、活動の仲間づくりや理解者の輪が広がることを主眼としており、夕張コンソでは地元新聞への掲載が現時点で最も有効な手段として実施している

効果・課題等

地元新聞社の好意的な記事の取上げにより、夕張市内や近隣地域に Y Y P の取組みが周知されてきた。夕張コンソとしては、担い手となる Y Y P の取組みは、現有 Y Y P メンバーのみならず夕張市内に広がることを期待しており、今後は A L L 夕張での体制も視野に入れながら、広報も含めた情報発信に関する検討を開始した。



北海道新聞社

中間支援の特徴、苦勞した点、工夫した点など

苦勞している点：担い手のマンパワー不足

工夫している点：協力者・理解者などの仲間作り

体制として連携する上での苦勞、留意している点など

工夫している点：電子メール活用による情報共有、意見交換

体制として行っている広報の状況

苦勞している点：担い手の取組みへの関連事業者の広報

工夫している点：夕張市役所の主導による関係者間への調整

体制の成長（スキル、ノウハウの蓄積など）につながった点

地域づくり活動を担い手のみならず地域を巻き込んだ活動とすることの重要性をあらためて認識した。

体制として連携することにより達成できたこと、メリット、効果

達成できたこと：

- ・観光ガイド養成講座の実施、モニタリングツアーの実施
- ・YYPの地域づくり活動の夕張市内に対する周知

金融機関、地方公共団体が加わったことによるメリットなど

担い手や協力者から体制に対する安心感が生まれた。

体制メンバーの関係性の変化

観光ガイド養成講座は夕張市役所が中心に支援を実施など、体制メンバー間で活動に対する役割分担が生まれた。

現時点では担い手の活動への体制整備に関する比重が高く、今後、担い手の事業化が進んでいくことによって商工会議所や金融機関の果たす役割が高まる活動へとシフトしていく。

体制の成果

公益財団法人はまなす財団は夕張市外の民間団体であることから、夕張市内のしがらみなどの制約を比較的受けることがないため、市内の体制メンバーでは困難であった調整を実施することができ、協力・連携団体の拡充が図れた。

連携が難しかった点

体制メンバーの距離的要因と冬季などの気候的要因に加え、体制メンバーとも限られたマンパワーで活動を実施していることから活動の制約や一部メンバーへの業務集中がみられた。

活動費の確保

開発した特産品などの売上のなかから、一定割合をＹＹＰの活動費とするなどについて活動費確保について検討を図る。

体制の活動の継続に向けた事業展開

ＹＹＰの地域づくり活動を自立的な活動として継続していくことが可能となるように当年度を事業化に向けた助走期間として設定し、重点的に体制整備や試験的な取組みを実施した。
次年度以降は事業化の自走開始と加速を図ることを目指しており引き続きハズオン型の支援を実施する。

体制の継続・拡充

本年度の活動の中で交流した団体や機関については体制及び担い手と継続して連携が可能な関係を構築しており、体制の不足している領域への拡充に期待ができる。

新たな担い手に対する支援の事業計画

ＹＹＰの活動が夕張市内や空知総合振興局管内などに波及し、この活動をモデルとした新たな地域づくり活動団体が発足されるように、地域づくり活動に取組むＹＹＰの活動を支える。
新たな地域づくり活動団体が発足し支援が必要な場合には、伴走型でその団体のニーズに応じた中間支援を積極的に実施していく。